

清水港における最近の取組



交通基盤部 港湾局港湾企画課

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

1 清水港カーボンニュートラルポート(CNP)形成計画の策定 (1)

「カーボンニュートラルポート(CNP)」形成の目的

港湾は

- 日本の総貿易量99.6%が利用する国際物流の拠点
- CO2排出量の6割を占める運輸・製造業等の産業が集積



港湾分野の脱炭素化「CNP」形成
効果・効率的、**脱炭素社会へ貢献**

「カーボンニュートラルポート(CNP)」形成とは

- 次世代エネルギーの輸入や貯蔵等を可能とする受入環境の整備
- 脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化、集積する臨海部産業との連携



港湾の競争力強化



1 清水港カーボンニュートラルポート(CNP)形成計画の策定 (2)

清水港における計画の概要

クリーンエネルギーでつながる、地域の未来を支える“スマートガーデンポート”

短期目標：2030年度までに 温室効果ガスの削減量 2013年比 47%削減
 長期目標：2050年までに 温室効果ガスの排出量 実質ゼロ

◆ 2022年度 (現在) : クリーンエネルギーの拠点化に向け、既に踏み出している

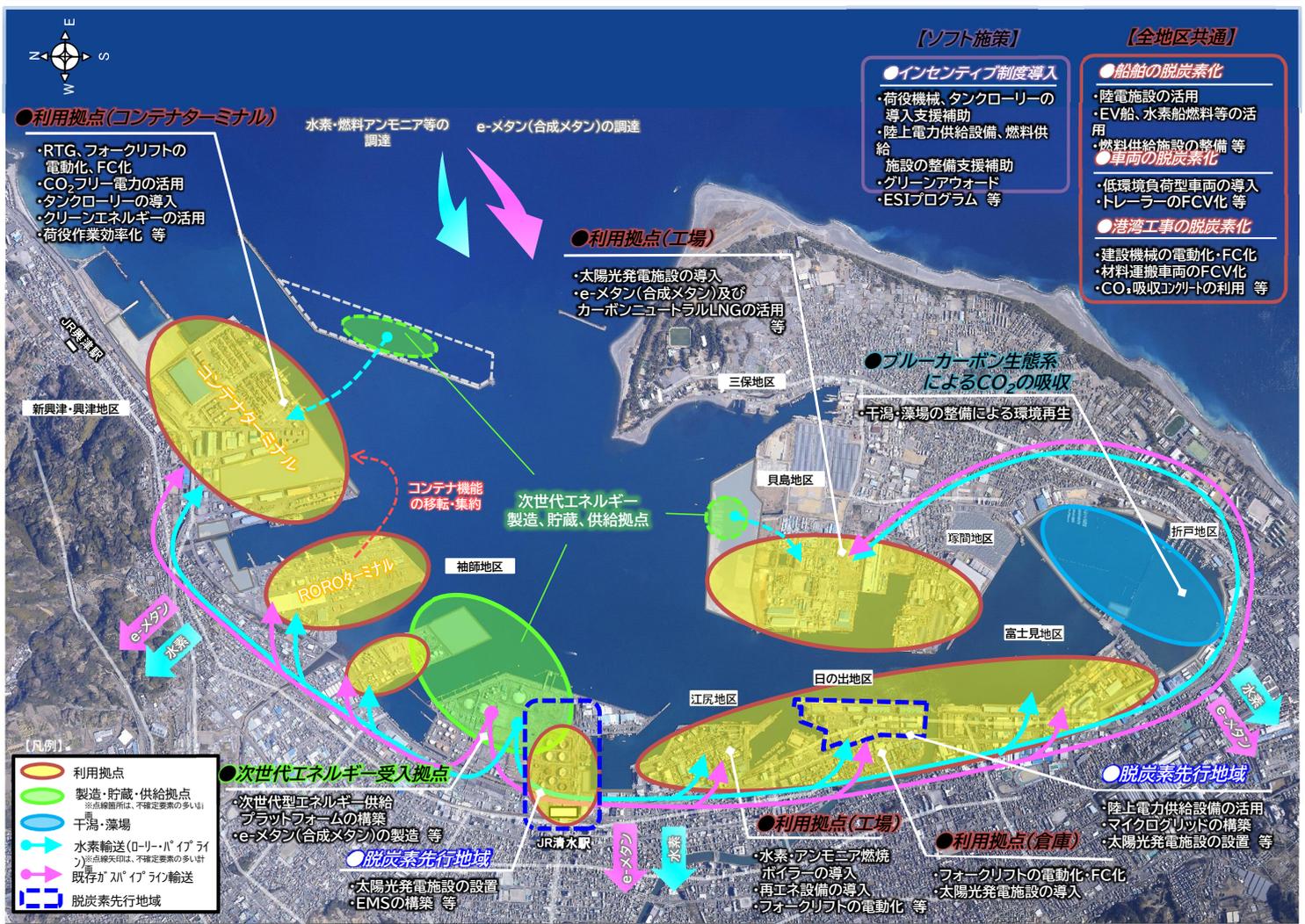
- 物流や人流、製造業等の産業が凝縮するコンパクトな港
- 温室効果ガス排出量は、全国の港湾と比較し多くない (約26万トンの火力発電等なし)
- 県内外に広く供給するLNGの基地 (カーボンフリーLNGの検討)
- 港内に脱炭素先行地域が2エリア (太陽光発電設備等の導入)
- 数年後に港内で、水素製造、貯蔵及び供給が始まる (クリーンエネルギーの拠点化)

◆ 2030年度 (中期) : 更なるCNPの実現に向け、官民一体で新しい取組を推進

- 技術革新を踏まえ
- 貨物取扱拠点の集約に伴う効率化等により、省エネ化を促進
 - 物流車両及び船舶等のEV化、FC化
 - コンテナターミナル等のクリーンエネルギーを活用した物流ネットワークの構築
 - クリーンエネルギーへの転換と供給手段の確保
 - ブルーカーボン生態系の育成、保全、拡大
 - 環境性能に優れた入港船舶への優遇措置の拡大

◆ 2050年 (長期) : CNP形成の早期実現 → 産業・港湾の競争力強化と脱炭素社会の実現に貢献

参考：清水港カーボンニュートラルポート(CNP)形成イメージ図 (2050年) (令和5年3月 静岡県交通基盤部港湾局)



2 三保内浜エリアマネジメントの取組

- 三保内浜海岸は、「三保松原」を背後に持つ、風光明媚で自然豊かな天然の海浜地
- 穏やかな海面により、一年を通じてマリンスポーツが楽しめる
- 都市に近接しているほか、陸上交通に加え水上バスによる発着も可能で、交通アクセスが良好
- 海浜地とその周辺エリアの**管理運営を民間事業者**に委ね、**より質の高いサービスを利用者に提供**すること（**エリアマネジメント**）により、住む人も訪れる人も愛着と魅力を感じる水辺空間を目指す

現状と課題

- 個々の施設に対し、**短期間かつ必要最小限の面積**での占有許可
- ・ 三保内浜が持つポテンシャル（場の力）が生かされていない
- ・ **利用者に質の高いサービスが提供されていない**

課題に対する取組と効果

- 海浜地とその周辺のエリアを、**中期的かつ一体的に**占有許可
- 統一感ある美しい海浜地を形成し利用者に
より質の高いサービスを提供**

管理運営手法

契約手法	占有許可
期間	R5.4.1～R10.3.31（5年間） ※1回のみ更新可（最大10年間）
範囲	海浜地一体、防潮堤背後地一部
事業者 (公募で 選定)	「三保内浜コンソーシアム」 【構成員】 (一社)清水マリノ・アンド・ビーチスポーツ振興協会 (株)gosea's（代表取締役 合志明倫） (有)nac.
その他	収益行為を含む自主事業実施可

収益を
維持管理費
に充当

民間事業者による主な取組内容



4

(事業者の一部紹介)三保内浜エリアマネジメント

2019年3月25日 講演会

『海洋スポーツから清水港振興を考える』

東海大学海洋学部 講師
プロウインドサーファー(北京五輪代表候補)
合志 明倫

1) 合志明倫 (ごうしあきのり) 過去の実績 (過去～本日迄)

- ・ 25年前に東海大学海洋学部進学により静岡に移住
- ・ 大学時代はウインドサーフィンに没頭して卒業後はプロウインドサーファーとして活躍
- ・ 北京五輪代表候補に選ばれるなど日本のトッププロとして世界を転戦
- ・ 2008年、三保に自身のショップ「gosea's surf」を開業してマリンスポーツ普及に努める
- ・ 2011年より母校の東海大学海洋学部特任講師として教壇に立つ
- ・ 2016年、静岡県内におけるSUP普及を目的とした任意団体「SHIZUOKA SUP FLEET」の副会長
- ・ JSAF（公益財団法人日本セーリング連盟/会長 河野博文）の公認計測員として国際レースの審判を担当
- ・ 9年前から三保エリア活性化の為に「三保カップ」を大会委員長として主催すると共に、三保半島における主要民間団体（三保連合自治会、清水旅館組合など）旅館との信頼関係を築く
- ・ (有)合志林工社 役員 1000ヘクタール山林保有運用



東海大学海洋学部や地元との調整
に大きく貢献できる一人!!

【講演当日の資料の一部】

東海大学



- ▶ 受験・入学案内 ▶ 在学生の方 ▶ 保護者の方
- ▶ 卒業生の方 ▶ 報道関係の方

海洋学部 ▶ ニュース ▶ 2019年度 ▶ 合志講師が「静岡県の…」

合志講師が「静岡県の幹部職員を
対象とした講演会」で講師を
務めました

2019年04月03日



海洋フロンティア教育センターの合志明倫講師が、3月25日に静岡県庁で開催された「静岡県の幹部職員を対象とした講演会」で講師を務めました。川勝平太静岡県知事が講師を選出し、平成21年度から定期的に関わっているもの。今回は合志講師が「静岡県における三保再開発への期待」をテーマに講演し、川勝知事をはじめ県の幹部職員120名が参加しました。

5